

国語 第1学年 ふねのせつめいをよもう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：船の役目と、そのためのつくりを対応させて読む。船の名前に加え、何をするために、どんな特徴があるかを説明する大事な言葉を選ぶ。C(1)ア・C(1)ウの学習として、船の説明カード。名前、役目、つくりの関係を自分の言葉で書き、説明に使う本文の言葉を選ぶ。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、船の役目とつくりを捉え、説明に必要な重要な語や文を考えて選び出しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ア・C(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：船の説明カードを残す。名前、役目、つくりの関係を自分の言葉で書き、説明に使う本文の言葉を選ぶ。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ア・C(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：写真で目立つ特徴だけを選ぶ。役目とつくりを別々に覚え、関係を説明できない。これについて、「すること」「そのためのつくり」を上下に並べ、関係する言葉を線で結ぶ。見た目の予想は予想欄に置き、本文で確かめた言葉と分ける。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ア・C(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この船は何をする船ですか。その仕事のためのつくりが伝わるのは、どの言葉ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ア・C(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：船の説明カードは紙に記録できる。名前、役目、つくりの関係を自分の言葉で書き、説明に使う本文の言葉を選ぶ。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ア・C(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ア・C(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：既存の説明文用の指導案と何が違うか。

返し：この版は東京書籍の全7時間とC(1)ア・ウを基に、船の役目とつくりの対応を確かめる活動を中心に組んでいる。他社の時数をそのまま使っていない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この船は何をする船ですか。その仕事のためのつくりが伝わるのは、どの言葉ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ア・C(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

